

埼玉発世界行き奨学金 留学レポート

留学先：イギリス

(2週間：オックスフォード、6週間：ハートフォードシャー)

私は、2022年9月から2ヶ月間イギリスで留学しました。最初の2週間は、語学学校に通うためにオックスフォードに滞在し、その後、6週間はハートフォードシャー大学で短期留学を行いました。このレポートでは、現地での体験や埼玉親善大使として私が行ったことについて書こうと思います。

- ①エリザベス女王国葬時の、雰囲気
- ②語学学校で出会った、スペインの友人
- ③ホストファミリーとの生活
- ④イギリスの薬学部の授業
- ⑤ムスリムの友人との体験
- ⑥ヨーロッパ旅行
- ⑦埼玉親善大使として行ったこと
- ⑧今回の留学を今後どのように生かしていくかについて

①エリザベス女王の国葬時の、雰囲気

私がイギリスに到着した9月8日は、ちょうどエリザベス女王が亡くなった日でした。到着した日は、特に特別な感じはしませんでした。9月9日にロンドンの方へ行くと、イギリス各地から花を手向けに来ている人で、人が殺到していました。

2週間のオックスフォードでの生活は、ホストファミリーとの生活でした。そのため、より一層、現地の人々が国葬の時にどのように過ごしているのか、目の前で感じる事が出来ました。国葬が行われた19日は、朝から晩まで中継されている国葬の様子をホストファミリーはテレビで見っていました。国葬が行われる前の週には、朝5時に家を出て、ロンドンへ花を手向けに行き、日本人にはあまりない、女王への忠誠心や敬意の気持ちの強さを間近で感じました。

オックスフォードの街中の様子については、殆どのお店やバスが営業を行っていませんでしたが、ファストフード店など一部のお店は開いており、人の多さに関しては日常と変化がありませんでした。しかし、よく見ると街中にいるのは純粋なイギリス人という訳ではなく、他の国の人が多いなと感じました。聞こえてくる言語も英語以外の言語がいつもよりも目立っていました。

歴史的に見ても貴重な時期に、現地の生活や文化を経験させてもらい、感謝の気持ちで一杯です。



↑バッキンガム宮殿前の木



↑1週間後の国葬に向けて、整備中

②語学学校で出会った、スペインの友人

2週間の語学学校では、スペインの友人と素敵な出会いがありました。最初の授業で自己紹介をし合った時に「どこに滞在しているの？」と聞いた際、彼女が "girlfriend's house" と堂々と言っており、とても衝撃を受けたのを覚えています。そこで、私は彼女らのバックグラウンドや経験についてお聞きしたいと思い、放課後にお話をお聞きする機会を頂きました。

スペインは日本よりも LGBTQ+に寛容な国だと感じました。そのように感じた最大の理由は、2005年に世界で3番目に同性婚を法律的に認めた国だからです。ただ、勿論全員の人々がそれを受け入れてるわけではなく、LGBTQ+を拒絶する人もいます。彼女らも過去に侮辱的な言葉や酷い言葉を浴びせられたことがあったとのこと。また、親御さんも彼女らの関係性を最初は受け入れてくれずに、親御さんと上手くいかなかった時期があったとのこと。でも、今は二人の関係性を認めてくれており、家族とも仲良く過ごせてるとのことでした。

日本では、なかなか LGBTQ+のことを告白したり、オープンにすることが難しいように思う、という話をした際に、「町中で、女の子同士でキスをしていたら、誰かが喧嘩をぶっかけてきたりするの？」と聞かれました。喧嘩とかは起こらないかもだけど、変な目で見られると思うと答えた。私の場合、自分と異なる文化や考え方について面白いと思うし、色々な人の考えをお聞きしたいという割とオープンマインドな性格なため、LGBTQ+をネガティブに捉えていません。しかし、親の世代や一部の人は拒否的な反応を示す方もいます。彼女が言っていたのは、「それは、小さい頃からの教育とかが、影響しているかもしれない。もっとオープンマインドな子が増える教育内容とかになればいいよね。」とのことでした。

たしかに、イギリスに来て思ったのは、日本はグローバル化してきてるとは言え、本当に単一民族国家だなと感じました。イギリスでは、街を歩くだけでも、色々な肌の人がいて、

色んな国のお店がそこら中にあり、東京と全く異なります。日本は、なかなか自分と異なる"他者"を受け入れるという環境になりにくい国だなと改めて思いました。



↑日本食の屋台を一緒に食べました。



↑スペインでは、友達と遊ぶ時はパブに行って打ち解けるそうです。
ここで、埼玉県がどのような所なのかのお話しもしました。

③ホストファミリーとの生活

2週間のうち、一番時間を共にすることが多かったのが、ホストマザーでした。彼女のホスピタリティ溢れる優しさに触れ、とても感動しました。一番、印象に残っているのはお料理についてです。毎日、違うメニューになるように料理してくれたり、私が料理することがが趣味だというと、一緒に夜ご飯を作ったり、イギリスの伝統のお菓子を作ったりしました。



↑夕食のメニューの一部です。



↑イギリスの伝統的なお菓子 Rice pudding



↑ Victoria sandwich



↑ Yorkshire pudding

④イギリスの薬学部の授業

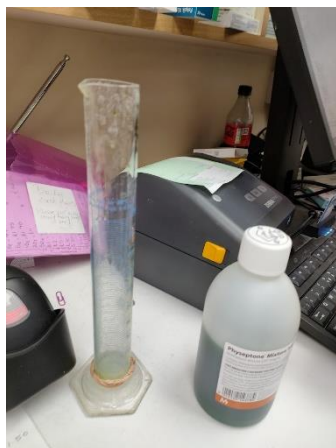
2週間、語学学校に行った後は、6週間ハートフォードシャー大学で薬学部の授業とイギリスの病院・薬局・企業で実習をさせて頂きました。授業に関して言うと、海外の大学の授業はアクティブラーニングで生徒も積極的に授業中に発言して、議論の時間もあるというイメージでした。しかし、実際に薬学部の授業を受けての感想は、日本の薬学部と同様に先生が話すことがメインの授業でした。

病院・薬局・企業に行った感想は、多くの方がイギリスは技術的にも進んだ国であるという印象だと思えますが、医療現場に関して言うと、日本の方が衛生環境も良く、薬局内のシステムに関しても進んでいると思いました。しかし、薬剤師の地位は日本よりもイギリスの方が高く、一定の研修を修めると処方権やワクチンを接種する権利も薬剤師に与えられています。コロナのワクチンに関しては、研修さえ受けてしまえば、医療従事者でなくても誰でもコロナワクチンを接種することができます。



←薬局でお世話になった方々です。

日本の医療機関は、服装や身だしなみにに関して、とても厳しいですが、イギリスは自由で、写真の通り、髪の毛の色も刺青も当たり前です。



←水剤を測るメスシリンダーが水垢で汚れています。



↑金庫で保管しなければいけない薬もトイレの真横にあります。

⑤ムスリムの友人との体験

大学で仲良くなった友人がムスリムの方でした。彼女と親交を深めることが出来たのですが、一番思い出に残っているのが食べ物を選ぶことでした。初めて彼女とロンドンで遊んだときは、どこのお店に行ってもハラルメニューはないと言われてしまい1・2時間程、お昼ご飯探しをしました。しかし、実際の所ちゃんと調べたら、ハラルのメニューのお店は口

ンドンに沢山あります。せっかく彼女と友達になり、彼女も日本食は食べたことが無いと言っていたので、日本食を振舞いたいと思ったのですが、うどんを買うにしても、味噌汁を買うにしても、原材料のところにアルコールの表記があり、振舞うことが出来ませんでした。日本人として、これまで考えたことない視点で食材選びをしたので、とても新鮮でした。韓国のインスタント麺はハラールマークがついているのに対し、日本の商品でハラールマークがついている食材を見つけられなかったので、日本の食品会社ももう少しグローバルな展開を頑張してほしいなと思いました。



↑彼女がスカーフとコーランをプレゼントしてくれました。



↑プレゼントしてもらったスカーフを1日して、一緒に遊びました。

⑥ヨーロッパ旅行

2ヶ月間の留学中に、私はオランダ、ベルギー、フランスに行くことが出来ました。2回に分けて、それぞれ2泊3日で行ったのですが、いずれも費用は4万円くらいで済みました。イギリスから他の国に行く際は、出入国審査がありますが、他のEUの国はどこ国に行くにしても、行き来が自由なのでとても素晴らしいなと実感しました。また、どの国もそれぞれの国民性、文化、食の違いがあり、とても充実した旅行をすることが出来ました。

旅行中のアクシデントはつきもので、夜行バスで帰宅する予定だったのですが、本来00:30出発のバスが85分遅れとなり、寒くて治安の良いとは言えない所で、待つ羽目になりました。女子2人の旅だったので、心細く、近くにアジア人の女性の方が一人でしたので、話しかけて仲良くなることが出来ました。彼女は韓国人の女性で、イギリスに住んでいる方でした。彼女の言葉で印象に残っているのは、「韓国は競争社会だけど、そこでの生活は何もかも一旦終わりにして、今、ここで新たな人生を進んでいる。」とっていました。彼女はこれを“give up everything.”と言っていて、言葉だけだとネガティブなニュアンスがありますが、彼女の言葉には力強く、直訳では表せない言葉の意味が詰まっているように、私には聞こえました。

自分が留学している国以外で、3か国も旅行できたのは、日本のパスポートを持っていたおかげですし、費用的にもとても恵まれているなと実感しました。本当に感謝申し上げます。

⑦埼玉親善大使として、行ったこと

私は、留学前、イギリスでは料理会を開催して、埼玉県の名産料理を振舞おうと思っていました。しかし、2ヶ月間の留学では、様々な理由から料理会を開催することは出来ませんでした。しかし、イギリスで出来た友人複数名に狭山茶の茶葉をプレゼントしたり、ホストファミリーには、くらづくり本舗のサツマイモチップスをプレゼントしたり、埼玉県のPRに努めました。

食べ物などをプレゼントすると、相手の興味が一気に埼玉県の方向に向き、お話を真剣に聞いてくれたので、狭山茶やサツマイモチップスを日本から持って行って本当に良かったなと思いました。



←ホストファミリーにプレゼントした日本からの土産

⑧今回の留学を今後、どのように生かしていくかについて

私は留学を終えて、「自分はどこでも生きられる」という自信を持つことが出来ました。そして、日本という国の素晴らしさも実感しつつ、グローバルな人生を歩んでいこうと思いました。

マインドチェンジについて人に共有

私は、今回の留学で一番感じたことは多様性についてです。日本は特に、単民族国家なので、物事を判断する軸が一つに絞られがちです。例えば、日本人が判断する「可愛い」とは、大体、芸能界にいるような女優さんやアイドルの方々だと思います。二重で、目が大きくて、肌が白くて…、それに合致していたら可愛い、合致していなければ可愛くない。そんな判断に陥りがちですが、イギリスや他の国では多民族国家であるが故に、そのような概念が存在しないんだなと実感しました。肌や目の色、髪の毛、体型、皆人それぞれで、一緒の人はいません。だからこそ、自分が自分の事を美しい・可愛い・かっこいい・自分は自分だと自信を持って、生活している感じが伝わり、私もイギリスで自分はありのままの自分で良いんだと自信を持つことが出来ました。日本ではなかなか難しいですが、このように皆がそれぞれ自信を持てる感覚をぜひとも、実感してもらえるように、友人や知り合いにこのイギリスでの経験を共有していこうと思います。

宗教について

これは、多様性について関わる話ですが、私は個人的に元々イスラム教を信仰している友人が多いです。私自身も現在、イスラム教について勉強していますが、イギリスで驚いたのは、ハラールフードの多さです。ハラールレストランでなくても、一般的なレストランに行ったときも一部がハラールメニューだったり、一般的なスーパーにハラールのお肉のコーナーがあったり、宗教に関わらず皆が生活しやすいような環境でした。日本では、まだまだ“ハラール”という言葉が知らなかったり、宗教というとテロ等のネガティブなことを関連付けてしまったりする人が多くいると思います。しかし、今後グローバルな世の中になっていく中で、“知らない”から許されるのではなく、自分から“知ろう”とする態度が必要だと思います。

日本人は無宗教の人が殆どの国ですが、神社やお寺に行けば、何かに向かって手を合わせてお祈りをします。その感覚と同じように、イスラム教・キリスト教・ヒンドゥー教等、それぞれの神様を信じているのです。自分は無宗教だから、他の宗教の事を知らなくていいのではなく、相手を理解するという意味で、勝手にネガティブなことを連想するのではなく、少しでも知った上で、他の国の人と関わると相互理解に繋がると思いました。

2ヶ月間という、本当に短い期間でしたが、私にとって今回の留学は自分の価値観や考え方に大きく影響する経験となりました。コロナ禍という状況下でも、学生のうちに留学をさせて頂けたことに、大変感謝を申し上げます。ありがとうございました。